

「越前蟹と水仙の文学コンクール」入賞者大賞作品

テーマ
希望

「令和2年度 越前蟹と水仙の文学コンクール」には、詩部門に572編、俳句部門に3,548句の作品が寄せられ、両部門の55人の入賞者が決定しました。表彰式は、新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、開催を中止としました。

俳句部門（小学生の部）

大賞

滋賀県平野小学校五年 七條 美優
「きょうだんに水仙かざる君がすき」

奨励賞

四ヶ浦小学校六年 森川 翔梧
織田小学校三年 松本 遼
織田小学校三年 富田 丞之佑
平泉寺小学校五年 竹内 悠翔
朝日小学校四年 木本 心太

佳作

俳句部門（中学生の部）

大賞

織田中学校二年 伊部 叶稀
「思ひ出は越前がににつまってる」

奨励賞

愛知県守山中学校一年 水野 結雅
朝日中学校二年 濱谷 真衣

佳作

朝日中学校一年 梶間 太陽
朝日中学校一年 渡邊 快
織田中学校一年 佐々木 柚月

俳句部門（高校生の部）

大賞

丹生高等学校三年 熊野 翔哉
「水仙の香り漂う海の声」

奨励賞

丹生高等学校二年 岩崎 吏玖
丹生高等学校二年 高島 朋加
丹生高等学校二年 西中 蒼太
福井農林高等学校三年 黒川 美有
丹生高等学校一年 水嶋 一翔

佳作

俳句部門（一般の部）

大賞

福井県越前市 野口 善雄
「ずわい蟹提げて結婚決めに行く」

奨励賞

神奈川県川崎市 久保田 聡
福井県鯖江市 大森 弘美

佳作

三重県鈴鹿市 松井 政典
青森県北津軽郡 竹浪 誠也
愛知県東海市 久保 良勝

詩部門（小学生の部）

大賞

朝日小学校六年 阪下 雄亮
「水仙に希望をたくそう」

水仙が ゆらめくよ
水仙のかおりが鼻をくすぐる いいかおり
人間来たら 笑ってる
ニコニコしながら 笑ってる
「いらっしやい、こんにちは。」

水仙に心ひかれる人間は、
晴れやかな気持ちで見ているよ
水仙がみんな笑ってる
人間もみんな笑ってる
地球のみんな笑ってる
わらってすごと、
いつの間にか希望がかがやき始める

水仙がゆらめくよ
いまから人間かえってく
水仙首ふりあいさつだ
水仙は、次の人を待つために
ニコニコしながら海を見る

奨励賞

朝日小学校六年 大塚 啓翔
四ヶ浦小学校一年 鈴木 さくら

佳作

朝日小学校六年 時田 美和
朝日小学校六年 内藤 萌日
四ヶ浦小学校一年 神崎 翔士郎

詩部門（中学生の部）

大賞

社中学校二年 向井 さくら
ピース

「かにはのおゆでると赤くなるんよ」
弟に教えてあげた。
そして、
「おまえは つらいこと のりこえて
おいしーなっとなるんやな」
つやつや ホワホワしている
かを見ても つぶやいた

佳作

京都府京都市 三ツ谷 直子
長野県長野市 中澤 眞美
福井県越前市 成田 祐美子

越前町商工会長賞

織田小学校二年 轟 弥雅
朝日中学校一年 青山 琉夢
北陸高等学校三年 北村 美和

福井県農業協同組合長賞

朝日小学校六年 松村 麻稟
越前中学校二年 岩本 智美
福井農林高等学校三年 石川 陸哉

越前町観光連盟会長賞

俳句部門（一般の部）
福井県越前市 安川 浩江
俳句部門（一般の部）
福井県鯖江市 友廣 勇介

越前町観光連盟会長賞

俳句部門（一般の部）
福井県敦賀市 倉谷 重瑠
詩部門（一般の部）
福井県福井市 林 千雅子

問合せ先 生涯学習課 ☎34-2000

詩部門（高校生の部）

大賞

丹生高等学校一年 佐々木 悠羽
「小さな「こころ」が泣いた」

佳作

鷹巣中学校一年 井川 桃
越前中学校三年 佐々木 一 椛
社中学校二年 廣 辻 伊 吹

奨励賞

越前中学校三年 嘉奈 秀太
社中学校二年 梯 楓

久しぶりの贅沢なごちそう
この日・この時・この時期に
ピースしているかを見て
笑っている弟を見て
「おまえは 幸せなやつちゃ」と、
思わないことはできなかった
そう。
必ず明日はくるんだ
かに持って
ハイ ピース

「いつもどおり」の日々はいつになったら
戻るんだろうと不安になって
これからのことを考えると暗いことばかりが目に付くようになった
でも、きっと
きっと、水仙やかには「いつもどおり」なん
だろう
水仙はいつもどおり綺麗に育つのだろう
かにはいつもどおりたくさんとれるのだ
ろう
そうして、いつもどおりたくさんの人を笑
顔にするのだろう

そんな小さな「いつもどおり」が、私に前を
向かせてくれる
さあ、明日も頑張ろう

奨励賞

兵庫県伊丹北高等学校二年 中村 佑香
三国高等学校二年 嶋田 太一

佳作

詩部門（一般の部）

大賞

神奈川県鎌倉市 草野 青人
「読書灯」

新月になればあとは少しずつ水仙が咲き
三十日かそこらでめぐるには月も忙しいね

奨励賞

愛知県一宮市 大江 豊
福井県坂井市 花澤 愛

その灯りで私は
本を読むのだ
へやをくらくして
安心をして眠られるように
光りをためた水仙の束を枕元において